授業のユニバーサルデザイン化のとりくみ

島本町立第一小学校　松本由香

１、はじめに

本校では、これまで数年にわたり校内環境、教室環境を整備し、学校全体で統一したユニバーサルデザイン化を進めてきた。本年度は、個々で進めてきた授業におけるユニバーサルデザイン化を校内で統一することを取り組の中心に据え、学校全体で進めている。

私は支援学級担任として、通常の学級で支援学級在籍児童の支援をする一方で、困り感をもつ他の児童の学習支援にも携わってきた。教室の中には、学習に対してやる気や自信をなくしている児童、どうしても文章題が理解できない児童、授業の流れに遅れてしまう児童、すぐに気が逸れて先生の話を最後まで聞けない児童、さまざまな困り感をもつ児童がいることに直面してきた。

また数年前から支援コーディネータとして、学校生活の中で困り感をもつ児童の支援を考えていく立場となり、その困り感の原因を追究する機会が増えた。保護者と連携し、専門機関からアドバイスをいただいたり、発達検査のフィードバックに立ち合わせていただいたりする中で、困り感は、本人の努力の問題だけではないことがわかってきた。

学校生活の大半を占める授業の役割は特に大きい。児童が「わからない」「できない」ことを積み重ねると、自信をなくし、自尊心が低下し、やる気と笑顔を奪い、人間関係にも歪みが生じる。「わかる」「できる」ことの積み重ねは、自信につながり、自尊心が育ち、やる気と笑顔に満ちて、人間関係の安定にもつながる。

困り感の原因がわかれば、さまざまな特性を持った児童が共存している通常の学級において、困り感を減らす授業の工夫ができる。誰もが「わかる」「できる」授業を目指した授業のユニバーサルデザイン化は重要な役割を担っている。

２、学級で共存する子どもたち

通常の学級には、さまざまな個性、特性をもった児童が共存している。躓きがみられる児童や不適応行動が見られる児童には、必ずその躓きや行動をおこす理由がある。児童の行動観察や生活環境、生育歴、発達段階や特性の理解などさまざまな視点から児童の実態を把握する必要がある。個別の支援を考える前提として、ユニバーサルな視点で教室環境・学習環境・集団環境を設定していくことが大切である。

３、学習場面でみられる特性に起因する困り感

（1）視覚的な課題

・字の形や大きさが整わない

・漢字を正確に書くことが困難

・音読において、勝手読みをしたり、行をとばしたり、繰り返し読んだりする
・音読が遅い

（2）聴覚的な課題

・一斉指導において、指示が聞き取れない（ざわついた環境で必要な情報を選択できない。）
・聞き間違いが多い

（3）感覚の敏感さ

・大きな音や突然の音を嫌う（聴覚）
・いろいろな音が同じ大きさで聞こえる（聴覚）
・においが気になって、活動に支障が出る（嗅覚）
・偏食がある（味覚）
・靴下を履くのを嫌がる（触覚）
・1年中半袖もしくは長袖を着ている（触覚）

（4）注意集中の課題

・授業中ボーっとしている
・忘れ物が多い
・整理整頓が苦手
・指示や説明が最後まで聞けない
・やるべきことが最後までできない
・気が逸れやすい

（5）こだわりが強い

・勝負にこだわり、負けると過剰に反応する
・切り換えに時間がかかり、次の行動に移れない
・他の人の席に座ることを嫌がる

（6）多動性・衝動性がある

・おしゃべりをし続ける
・落ち着きがない
・授業中の離席が多い
・カッとなりやすい
・声の大きさがコントロールできない

（7）言語理解の課題

・指示や説明の内容理解が難しい
・文章題を解くことが難しい
・会話に参加することが難しい

・できごとや気持ちを言葉で伝えられず誤解されやすい
・ことばの使い方に誤りがみられる

（8）知覚推理の課題

・社会的なルールが理解しづらい
・状況に合わない発言をする
・相手の表情をよむことや気持ちを予測することが難しい
・見通しが持ちにくい

（9）ワーキングメモリーの課題

・指示がわからなくなる
・手順の多いことを理解することが難しい
・約束を覚えられず、トラブルになる

（10）処理速度の課題

・書くことが遅い
・音読が遅い
・時間内に板書を写すことや課題が終わらない
・活動のペースがゆっくりで同学年の集団についていけない

（11）不適切な対応から生じる不適応行動

・やる気がわかない
・自信がない
・過度な反抗

大小あるものの、発達のアンバランスさを持つ児童は少なくない。授業をユニバーサルデザイン化することで、すべての子どもたちが楽しく学び「わかる」「できる」経験を積み重ねていける環境づくりを工夫していかなければならない。

4、授業のユニバーサルデザイン化

（1）学習環境の整備（場所の構造化）

1　黒板と黒板周りはスッキリ

・教室前面は刺激を減らして、授業に必要なものだけ（写真1）
「1日の予定」「学習のめあてと流れ」
・教師机の上は整理整頓、教師用の棚には中が見えない工夫
・教室側面と背面の壁を有効にかつ計画的に活用

写真１

2　必要なものが揃っている環境

・家に持ち帰るものの精選

学習するときに、教科書や使用する道具などがないとそこで躓きが生じる

学校保管するもの、毎日持ち帰るものは児童の実態に合わせて決める

・授業で使用するものの管理

机の中、机のフック、教室の棚など、何をどこに片付けるかわかりやすく表示・整理整頓（写真2）（写真3）（写真4）

・机の上には、必要なものだけ

授業のはじめには、机の上が必要のあるものだけになっているか、整理されているか確認

写真２

写真３

写真４

（2）学習活動の見通し・パターン化（時間の構造化）

1 見通し

①学習のめあてを明らかにする。

②見通しを持って主体的に活動できるよう1時間の活動の流れを始めに説明する。

③「今、何をするのか」「次に何をするのか」視覚的に明示する。

④片付けの時間を確保する。

⑤終わりの時間を守る。

単元の見通しや1日の見通し（写真5）、1週間・1ヶ月の見通し（行事や特別な活動等）が持てる工夫があるとよい。

写真５

2 パターン化

学習の流れをパターン化することで、説明する時間も短縮でき、子どもたちも主体的に活動できるようになる。→　活動時間が増える。

（3）授業構成（活動の構造化）

1　指示・説明・発問

・指示は、抽象語を減らし、具体的に簡潔にわかりやすく→可視化

・肯定的な表現で

・声は適度な大きさで、声の高さにも注意が必要（高い声、大きな声は刺激が強すぎて、言葉の内容を理解する妨げになる）→場面に応じた声の使い方

2　構成

めあて・・・本時のねらいが達成できる問いの形にした表現で。

一人で・・・学習課題を自分の問題として捉え、向き合い、解決方法を考える時間。
十分な時間の保障が必要。→ **書く活動**（写真6）

ペア・グループで・・・自分の考えを伝える・友だちの考えを
聞く。→ **話す・聞く活動**

みんなで・・・多様な考えをいくつか絞って発表させ、
みんなで比較検討する。
発表の仕方は、発表の型をはじめに
示しておく。→ **発表の活動**

ふりかえり・・・自分の学びを振り返る。わかったことを
自分の言葉でまとめる。

写真6
ホワイトボードを使って
全員が参加

3　板書・ワークシート

板書

・見やすく、整理して書く。
・字の大きさに気をつける。
・「今」「ココ」（図1）など、注目すべきところに印をつける。

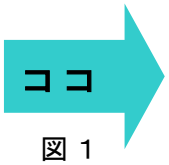

図１

ノート

・全ての子どもが授業時間内に書き終えられるように設定。
・配慮がいる場合は、補助プリントを活用する。

補助プリント

・板書と同じような構成がよい。
・内容と量を調整する。

ワークシート

・□ や（　　）に通し番号をうつ。
・ファイルに綴じるプリントには、予め穴を開けておき、授業時間内に綴じる。

5、おわりに

学校には、あらゆる個性・特性をもった子どもたち、さまざまな生活を背負った子どもたちがともに学んでいる。特に発達にアンバランスのある子どもたちは、理解されにくく、否定や叱咤される場面を積み重ねてきているケースが多い。そのため、自己肯定感が低く、年を重ねるにつれ学習意欲も下がっている。肯定される場面を積み重ねていくために、授業におけるユニバーサルデザイン化は必要である。

授業のユニバーサルデザイン化の取り組については、まだまだ十分とはいえないが、これからもさらに工夫し、楽しく学び「わかる」「できる」授業を展開し、主体的に考え、学び、問題解決ができる児童を育て、社会の中で問題を解決しながら主体的に生きて行ける大人への土台作りとなる教育を展開することが私たちの教員の責任であると考える。小学校6年間で子どもたちが充実した　学習活動ができるよう、今後も努力を重ねていきたい。